

## 山行報告書

山行管理部

公開山行 <sup>からとごえ</sup> 唐櫃越 沓掛山 415m・みすぎ山 430m 4月23日(日)

CL井 SL入山 L足立 参加者28名(内一般3名) 歩行6時間 12.5km  
阪急上桂駅 8:30～沓掛山登山口 9:00～丁塚 9:32～沓掛山 11:11～(昼休憩 12:00  
出発) 唐櫃越 13:35～みすぎ山 14:10～JR馬堀駅 15:33

桜からハナミズキの季節に移り変わった休日、唐櫃越を歩いた。明智光秀が本能寺を攻める際に用いたルートのひとつである(CLより説明いただく)。今回は逆のコース上桂駅～馬堀駅までの古道をたどった。

上桂駅より改札すぐの踏切を渡って直進し、竹林の坂道を登ると墓地がみえる。巨大たけのこがニョキニョキと姿をあらわしていた。山道がはじまり、いきなり歴史のうねりに惹きこまれた感がある。森林帯のやさしい土の感触を楽しみながら、ゆるやかな登りを進む。2時間ほどで沓掛山の小広場へでる。昼食休憩とクラブ紹介後、緊急避難時のツェルトのレクチャーをしていただいた(貴重な時間ありがたいです)。更に進むと視界が開けた平坦な舗装道に降りる。1時間程、林道が続き、だらだらとした足運びになるのだが、両脇には、「マムシグサ」がちらほらと出迎えてくれた。みすぎ山の入り口(分岐に標識があり左へ入る)を登っていくと、鉄塔があり、展望がよく、愛宕山や屈曲した保津峡がみえる。下山はやや急な下りとなり、後半の疲れもでてくるので慎重に足を運びたいところだ。如意寺あたりに降りてくると住宅街が開けて15分ほどで馬堀駅に到着する。爽やかな風が吹き、新緑が美しく、アップダウンの少ない山行で心地よい達成感があった。一般参加の方3名おられ、また気軽に来られることを期待したい。

最後にトイレ事情が悪いので、駅で済ませるか、倒木の根の影でお花摘み状態となるので携帯トイレ持参などの点を提案します。参加者の皆様、色々ご協力ありがとうございました。(足立 記)



春山特別山行報告 立山 5/2~5/5 CL 園 SL 松本(光) 参加7名

5/2(火)20:45 クラブ事務所発

5/3(水)快晴 2:10 立山駅前駐車場着、仮眠 7:30 立山ケーブル発 9:00 室堂  
ターミナル着~10:00 雷鳥沢キャンプ場着、テント設営 11:30 別山  
に向けテン場発 雷鳥尾根経由 14:40 劔御前小屋着 14:50 下山開始  
17:00 テン場着

5/4(木)快晴 8:55 テン場発~11:30 着一ノ越山荘 11:45 発~13:25 雄山山頂着  
13:45 発~15:15 着一ノ越山荘 15:25 発~17:00 テン場着

5/5(金)快晴 7:40 テン場発 7:50 ヒュッテ組合流~9:20 室堂着 9:40 発バス  
乗車 10:50 ケーブル立山駅着 称名滝見学後帰阪 21:00 クラブ事務所着

5/2 翌日の行動に余裕を持たせる為、夜発とする事を最終のトレーニング  
終了時に決定し予定通りに乗用車2台に分乗し、テント、コッフェル、ス  
ノースコップなど共同装備を積み込み事務所を立つ。

5/3 GWにもかかわらず北陸道は案外空いており深夜2時立山駅前着も第  
1駐車場は満杯、やむを得ず第2駐車場に駐車し仮眠。

廻りのざわざわとした音で起床、事前にメンバーがWeb予約してくれ  
ていた7:30発のケーブルに乗車する事ができ順調に室堂ターミナルへ、快晴で  
白く輝く雪の世界に胸が高鳴る。ターミナル内の安全指導センターに計画書提出  
し、山行上の注意をうかがうと、雄山から大汝へのトラバースでは、ザイルを張  
って、スタカット(2人でザイルを結び合い交互に行動する事)でないと通れない  
し、前日もそこで300mほど滑落事故があったという情報を得た。アルパイン  
の訓練を事前にしておらずクラブの山行姿勢もそこまでを求めていない事も有  
り、縦走する事は我々のパーティでは無理であるので、三山縦走を断念する事を  
SL、コーチと相談の上メンバーに伝える。テント設営後、今日は雷鳥尾根から別  
山の往復とする事を伝え納得してもらおう。みくりが池温泉小屋付近で変色し始め  
た雷鳥のつがいに出会い、ほんのりしながら雷鳥沢へ、テン場は色とりどりのテ  
ントで満杯状態。11時半からの行動であり雪も腐れ気味で、キックステップで  
歩くにはお手頃の状態、メンバーにキックステップの訓練を兼ねて歩みを進める。  
厳しい斜面と前夜十分な睡眠を取れていない事もあり、メンバーの歩みは遅い、  
特に最年長のSの歩みは顕著に遅く劔御前小屋が見えた辺りでSとHはメンバ  
ーを待ち待機、他のメンバーは劔御前小屋まで進む。小屋手前では、やせ尾根が  
出て来てスリッパに注意をしながら無事に小屋に着く。小屋前から少し劔沢へ出

ると、雪のついた劔岳の威容が眼前に現れ感動した。下りは踵でのキックステップで斜面下部が見えない怖さを感じながら下りて行くが終盤ではすべり板を利用して下りるメンバーも。無事にテン場着後、ヒュッテ組と別れ夕ご飯、豚のみそ鍋とアルコールで楽しい夕げ。明朝の出発を遅らせなので廻りのテントに迷惑にならないような時間まで楽しく語らう。

5/4 日の出が早いのと、廻りのテントの動きも有り 5時過ぎには起床、今日も快晴の天気、テント内からは早々に雄山に取り付いているパーティが何組か見えている。ゆっくりと朝食を取り出発の準備をし、小屋組を待つ。

一ノ越へはブルドーザーで整備された谷あいの道を行き、途中から斜面を直登。室堂から来る登山者や山スキーの人達と合流し賑やかだが、雪の斜面はどこでも歩けるので、夏道と違いラッシュを感じさせない。

一ノ越山荘前に立ち黒部側を見ると遠くに雪をかぶった槍ヶ岳、鹿島などの大展望に感動する。ここまでのメンバー2名を残しアイゼンを装着し、雄山へ向かう。小屋前から見る限りでは夏道に少し雪が付いているようだが、下山して来られた方にうかがうと山頂付近では凍っているところも有るとの事。岩と雪のミックスした夏道の登り専用のペイントを探しながら若い登山グループにはどンドン追い抜かれていくが、ゆっくりと安全な歩みを心して登る。スニーカーで登ってくる人もいるが、きっと靴の中は濡れて冷たい事だろうなどと思いつつ、頂上直下ではやはり道は凍っており慎重にアイゼンを確実に蹴り込むよう指導して山頂に辿り着いた。

三角点は社の建つ頂上ではなく社務所横の広場にある。何故と問われたが必ずしも急峻な頂上にある訳ではなく、測量に適した地点に置くことが多いと説明したが納得したかな？社を捲く夏道側から計画していた縦走路を覗く。トラバースするコースにはしっかりと雪が付いており急な斜面でもあり、危険を回避し縦走を断念した事に確信を持った。

頂上から山スキーで下りるグループがいたのでどうして岩場をそりを付けたまま下るのかなと見学した後、下山を開始する。

下山の方がアイゼンを引っ掛けて転倒する要素が高いので慎重に下山コースを下りる。山荘前で待つ2人と合流し同じコースをテン場へと戻る。2日間とも快晴で皆それぞれに日焼けし健康色になっている。テント前で全員そろって山行を無事に終えた事にビールで乾杯、一人ずつ感想を話してもらった。今夕の食事はホルモン鍋で舌鼓、アルコールが進んだことは言うまでもない。

5/5 5時前に起床。朝食後テントを撤収し室堂ターミナルへ、ターミナル

直前のハイ松の陰でも雷鳥1羽に会う。多くのカメラで覗かれて怯えているように見えた。朝早いので美女平へのバス待ちの乗客もそれほど多くないが、バスから見える雪の回廊見学の観光客は早朝から多かった。立山駅から称名滝を見学後、富山駅近くの風呂屋に入浴し疲れをいやす。さあ大阪へ帰ろうと風呂屋の駐車場で駄べっている時に足元から大きな揺れが！ 能登半島の



地震の影響だという事は車内のラジオニュースで知った。21時にクラブ事務所帰阪、テントや借りて行った装備を返却、経費精算後、解散し今回の春山特別山行を無事に終えた。

記録：早川 写真：高桑（記：園）

## サロン 馬見丘陵公園（第二弾）5月5日（6日から変更）

CL 宇野 SL 佐内 参加者10名

鶴橋9：37⇒⇒⇒10：01五位堂 駅からバス組3名とウオーク組6名に分かれて出発、池部駅からの1名と公園で合流、終わりかけのネモフィラの丘に車座になり、久しぶりの八木さん、森下さんを交えて賑やかな昼食となりました。少し早めに切り上げて解散、バス組3名は五位堂駅へ、7名は新緑の公園の散策や盛りのポピー畑を楽しみながら池部駅へ向かいました・・・仲間の皆さんが長く元気でありますようにと想いました。



（宇野 記）

## 土曜山行 あけだおさん 明ヶ田尾山 ～ 鉢伏山 5月13日

CL 三嶋、SL 島袋・安田 参加14名

8:32 箕面駅（出発）～ 9:12 望海展望台 ～ 9:50 ビジターセンター ～

11:15 最勝ヶ峰～ 11:45 証如峰 ～ 12:40 高山集落 ～ 13:36 明ヶ田尾山 ～

14:18 鉢伏山 ～ 15:20 ようらく台園地 ～ 16:40 瀧安寺（解散）

コロナ禍で交通機関を使つての山行を控えている時に、体力維持のため自宅か

ら徒歩で行けるコースを、大きく3つ程設定し歩いていた。その中で最勝ヶ峰から谷山尾根を歩くコースと、鉢伏山から明ヶ田尾山へのピストンのコースを、部分的に繋ぐ一周コースを考えてみた。標高は低いが累積高度は1,200m近く、土曜山行として「十分やれる」と確信した。

当日は午後から雨の予報であったが、予定通りのメンバーが揃い出発した。今回のコースは大きなアップダウンが4回程あるが、2つ目のピーク（最勝ヶ峰）を越え、北摂霊園の入り口付近からは、大規模な霊園を含め、能勢や篠山方面の山々が一気に開けて見える。高山集落内の北側「高山右近生誕の地」石碑前で昼食とした。ここから明ヶ田尾山への登りとなるが、沢筋を登り詰めた稜線はなだらかで、殆どそのままの高度で明ヶ田尾山山頂を踏む。鉢伏山へは一旦来た道を戻ってから下り、さらに最後の登りとなる。14時過ぎ頃からポツポツと雨が降り始めた。平坦な山頂の鉢伏山からは傘をさし、ようやく台園地まで一部車道を歩いた。最後の下りの落合谷は水量が多く感じられたが、一週間前の大雨の名残りか。土曜日にしては人通りの少なめな滝道を歩き、瀧安寺で解散とした。

(三嶋 記)

## 教育部 芦屋地獄谷ホワイトフェイス (岩登り教室) 5月20日(土)

参加3名 [高桑、木村順、出口]

阪急 08:30 芦屋川駅前 → 09:00 高座の滝 → 09:30 WF → 10:00 A懸壁  
→ 12:30 風吹岩 → 宝寿の水 → 15:30 阪急芦屋川駅 解散

駅前広場は、今年の同時期に比べ、多くのハイカーなどで賑わい、ほぼ平常に戻った感じの風景に歓びを感じる。昨年初めて使用した岩場のWFは先着Grがあり、A懸に変更移動。支点作成や合図確認の徹底などの必要性を説明して、三点確保、ロアダウン、懸垂下降、自己ビレイの取り方などの実技を反復練習する。また、近畿ブロックセルフレスキューを受講された出口さんから、復習の意味も兼ねてカラビナスルーなどの実技を再現をした。その後は、飲める水場や展望の良いスポットなどを紹介し、会下山遺跡下の中学校敷地内の新しい通路の見学をした。

(高桑 記)

## 有志山行 佐渡金北山 5月8日(月)～10日(水)

CL 乾 SL 堺、新熊 参加5名

5/8 新幹線、バス、フェリー乗り継いで佐渡 両津港 15:05 着

タクシーにて 16:00 ドンデン高原ロッジ (泊)

5/9 ドンデン高原ロッジ 7:00 → 7:25 尻立山 → 7:40 ドンデン池 → 8:15 アオネバ十字路  
→ 9:30 マトネ → 11:00 石花越分岐 → 11:15 真砂の峰 → アヤメ平 → 14:00 金北山 →

15:50 白雲台 白雲台→タクシー→みなと旅館（泊）トキ

5/10 みなと旅館→タクシーにてアオネバ登山口へ

アオネバ登山口（アオネバ溪谷入口）7:50→落合→ユブ→10:30 アオネバ十字路  
→11:15 ドンデン高原ロッジ

ドンデン高原ロッジ→タクシーにて両津港へ

フェリー、バス、新幹線乗り継いで大阪へ帰阪

金北山は花の百名山、以前から行きたいと思っていましたがコロナも収束して来たので今年やっと実現しました。全国旅行支援もあり、また今年は NHK 朝のドラマも重なって平日にも関わらず、この時期花がたくさん観賞できるとあって多くの登山者に出会いました。今回は花をじっくり楽しむことが目的のためゆっくり歩きました。2日間、参加者5人10個の目玉で観察しながら歩きましたので多くの花に出会いました。山行途中に出会った花の名前を列記します。（順不同、すべてカタカナ表記）

フッキソウ、ザゼンソウ、ミズバショウ、エンレイソウ、ヒトリシズカ、シラネアオイ、スダヤクシュ、ヤマトグサ、サンカヨウ、カタクリ、ヒメイチゲ、シロバナオドリコソウ、ニリンソウ、イチリンソウ、ウツギ、サワハコベ、ミズ、クルマバソウ、ギンリョウソウ、キクサキイチゲ、オオカメノキ、フデリンドウ、トウダイグサ、キジムシロ、オオイワカガミ、ショウジョウバカマ、ミスミソウ、ハクサンハタザオ、ギンラン、スズムシソウ、ルイヨウボタン、コケイラン、チゴユリ、ユキザサ、ニシキゴロモ、オニシバリ、オトメエンゴサク、コンロンソウ、アマナ、ミヤマカタバミ、タムシバ、ミネザクラ、ニワトコ、スマレサイシン

（乾 記）